

町ぐるみ「和木学園」報告書

明治150年記念講演「大村益次郎～未完の軍制改革～」



1 和木学園の概要

町全体を学園と捉えて、その学園で行われる生涯学習を推進する取組である。新たな取組として、生涯学習を推進するイベントやニーズに応じた講座づくりを展開するとともに、これまで取り組んでいる活動も和木学園の取組として捉えることができる。

2 実施目的・概要

町民が和木町の歴史に興味を持ち、幕末期から明治初期の出来事や文化を知ることにより、知識の向上、新たな発見の手がかりの手助けとなることを目的として、2年に渡り広報紙に4名の有識者が執筆する歴史のコラムをリレー方式で掲載している。今回は一連のコラムの最後の執筆者である、和木町出身の竹本知行准教授による歴史のコラムの復習、コラムでは書ききれなかった詳細についての講演を実施する。

3 日時・場所

日時：令和元年6月15日（土）14:00～16:30
場所：総合コミュニティセンター3階 集会室

4 講師

和大学政治経済学部 准教授 竹本知行氏（和木町ご出身）
和木町文化財保護審議会 会長 正中克磨氏

5 参加者

町内外より85名

6 日程

14:00 挨拶（和木町教育委員会 重岡良典 教育長）
14:05 第1部 講演会（竹本准教授による講演）
15:45 第2部 トークセッション（竹本准教授と正中会長の対談）
16:30 閉会



7 講演会の様子

前日から続く降雨で大変足元の悪い中ではあったが、町内外から多くの方々が来場され、大変盛況であった。

第1部の竹本准教授による講演では、大村益次郎が明治2年に亡くなるまで取り組んだ軍制改革について、目指した方針や流れ、大久保利通らとの対立などについて詳細な解説をいただいた。

第2部のトークセッションでは、町広報紙に連載をいただいたコラムについて、各回の内容を掘り下げることで、大村の生涯と当時の時代背景・社会情勢などについて知ることができた。

全体として、近年はあまり注目されていない大村益次郎という人物を通して、学校の教科書等では語られることのない、幕末～明治初期の実態と先人たちの足跡に触れるものとなっていた。来場者は講師の話に頷いたり、メモを取ったりしながら、興味深く講演を聞いている様子であった。



参加者アンケート結果（回答数 27）

問1 この講座に参加した感想を教えてください。

とても満足	16	満足	9	普通	1	あまり満足しない	0	不満	0	未記入	1
-------	----	----	---	----	---	----------	---	----	---	-----	---

問2 この講座のよかったところ・改善すべきところを教えてください

○よかったところ（抜粋）

- ・企画運営共によく考えられた良い研修・講演会であった。和木学園というネーミングもなかなか魅力的で、若い力も感じられた。トークセッションもとても面白くよくわかってよかった！
- ・大村と大久保の対立がよくわかった。
- ・研究者としての論点について講演
- ・分かりやすい言葉を使っていたが、歴史の中での大村益次郎の人物像が見えてきた気がします。
- ・大村益次郎の軍制改革を細かく講義されたところに興味、驚きがありました。なかなかこの部分は出会えないものだったので。トークセッションは面白かったです。
- ・言葉ははっきりして聞きとりやすく、わかりやすかった。
- ・二人の対談がわかりやすくて良かった
- ・歴史の一端が少し解ったような気がします。
- ・竹本先生の御講演が明瞭でわかりやすく、また、とても面白く勉強になりました。正中先生のご質問も的を得ておられてとても勉強になりました。

●改善すべきところ

- ・できれば歴史初心者でも分かるよう専門的な言葉をおきかえた方がより分かりやすい。
- ・講師の著書の販売
- ・和木町外にもより多く広報していただけるとありがたく存じます。
- ・話が前後しすぎで一素人である私にはわかりにくかった。流れがつかめなかった。高齢者にとっては少しテンポをさげて話して欲しい。

問3 この講座をどのように知りましたか。(複数回答可)

広報わき	11	案内チラシ	16	人づてに聞いた	3	その他	5
------	----	-------	----	---------	---	-----	---

問4 「こんな講座を受けてみたい・やってみたい」というご意見があればご記入ください。

- ・四境の役の詳細な話
- ・和木町内の歴史、文化の講演を開催して欲しい
- ・大竹市では歴史研究会が主体となって市教委と共催で毎年やっています。行政が主催する型が一番良いと思います。ポスターにあっとうされました。うらやましいかぎりです。
- ・歴代天皇についての講演
- ・「広島藩の志士」の作者穂高建一さんと呼んで下さい。今、話題の人です。
- ・戦後の日本を導いた一人としての渋沢（澤）栄一のしごとについて